

【参考資料】地域における災害リスクの詳細（資料編掲載イメージ）

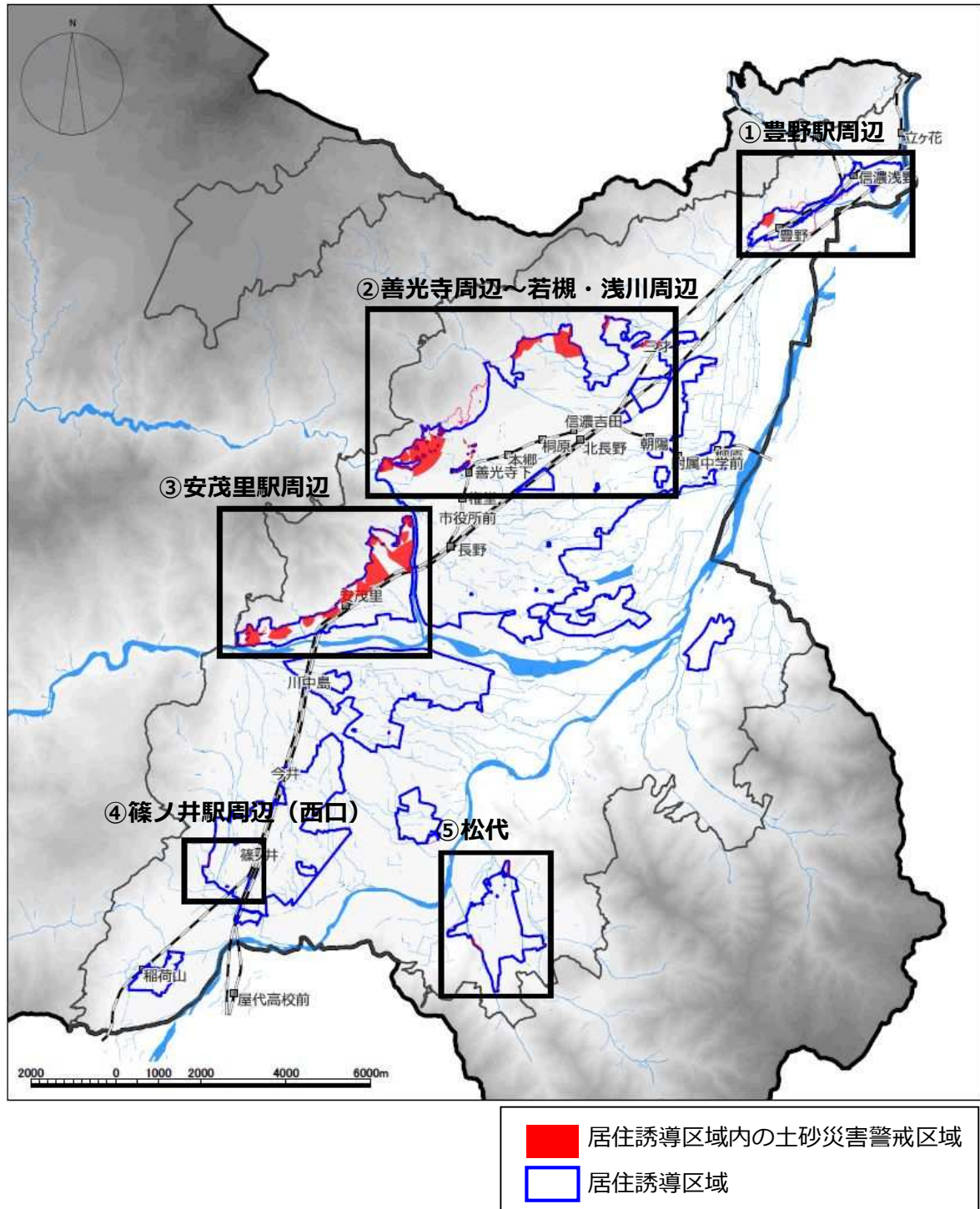
1 地域における災害リスク分析（地域別詳細）

(1) エリア別の土砂災害リスク

○ 居住誘導区域内の土砂災害警戒区域

居住誘導区域内の土砂災害警戒区域（イエローゾーン）指定箇所は下記のとおりである。
次頁より下記①～⑤のエリア別にリスクの詳細を確認する。

■ 居住誘導区域内の土砂災害警戒区域

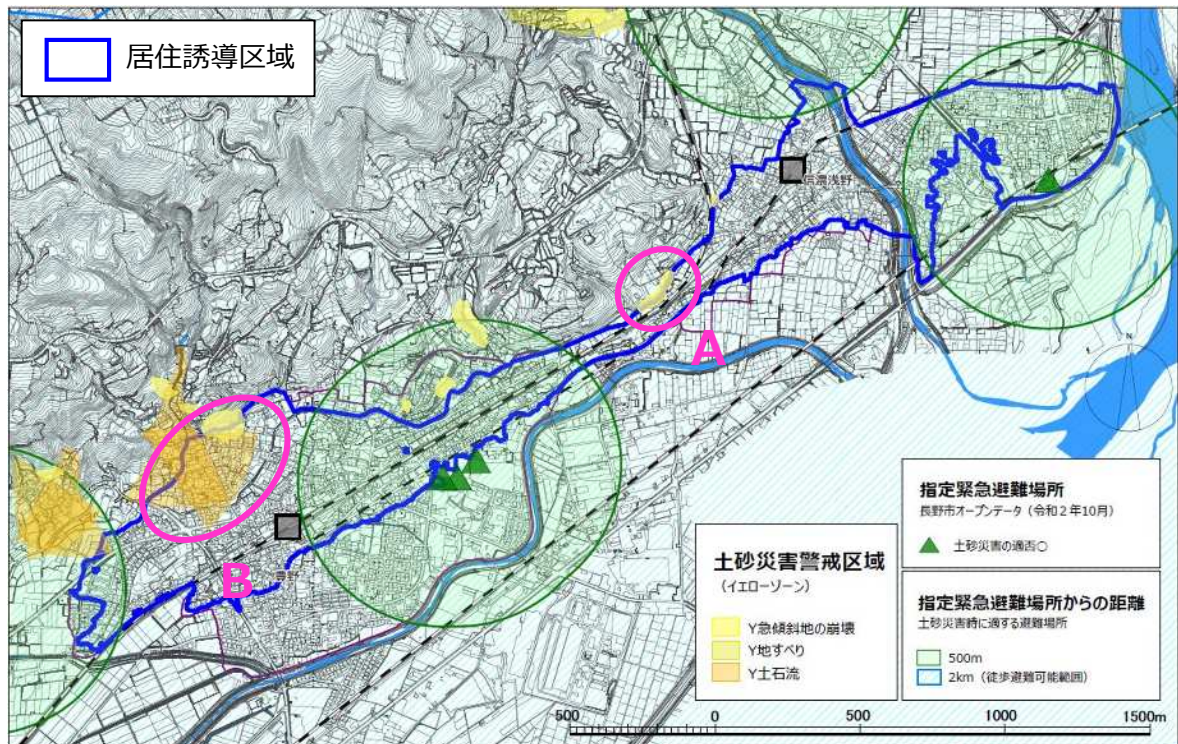


① 豊野駅周辺

居住誘導区域内の土砂災害警戒区域について、土砂災害時に利用できる指定緊急避難場所からの徒歩圏内距離（雨天の徒歩避難を想定し500m圏※と設定）と緊急避難場所選定基準地域（徒歩避難可能範囲＝歩行距離2km以内（国土交通省「震災に強い都市づくりの手引き」より）を基準とする。）を重ねた図面より、豊野駅周辺にて相対的に課題のある箇所を把握する。

※500m：「都市構造の評価に関するハンドブック（国交省）」では、高齢者の一般的な徒歩圏を半径500mとし「高齢者徒歩圏」に設定している。

■ 豊野駅周辺居住誘導区域内の土砂災害警戒区域と指定緊急避難場所徒歩圏



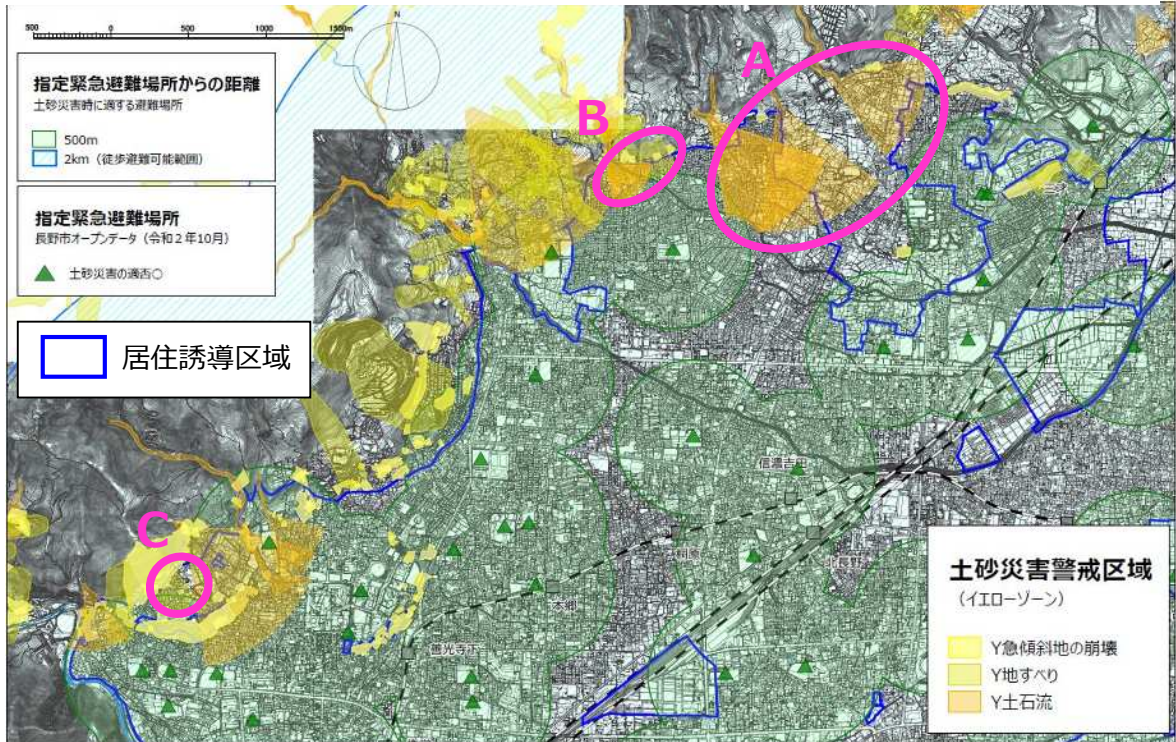
（出典：行政地図情報（長野市HPより）、平成29年度都市計画基礎調査
長野市オープンデータより作成）

課題のある箇所	リスクの状況（右列はエリア共通）	
A	・急傾斜地の崩壊のおそれがある。	・土砂災害の危険がある時に避難できる指定緊急避難場所（土砂災害の適否○）から離れている
B	・土石流の発生および急傾斜地の崩壊のおそれがある。	

② 善光寺周辺～若槻・浅川周辺

居住誘導区域内の土砂災害警戒区域について、土砂災害時に利用できる指定緊急避難場所からの徒歩圏内距離（雨天の徒歩避難を想定し500m圏と設定）と緊急避難場所選定基準地域（徒歩避難可能範囲＝歩行距離2km以内（国土交通省「震災に強い都市づくりの手引き」より）を基準とする。）を重ねた図面より、善光寺周辺～若槻・浅川周辺にて相対的に課題のある箇所を把握する。

■ 善光寺周辺～若槻・浅川周辺居住誘導区域内の土砂災害警戒区域と指定緊急避難場所徒歩圏



（出典：行政地図情報（長野市HPより）、平成29年度都市計画基礎調査
長野市オープンデータより作成）

課題のある箇所	リスクの状況（右列はエリア共通）	
A	・土石流の発生のおそれがある。	・土砂災害の危険がある時に避難できる指定緊急避難場所（土砂災害の適否○）から離れている。
B	・土石流の発生および地すべりのおそれがある。	
C		

③ 安茂里駅周辺

居住誘導区域内の土砂災害警戒区域について、土砂災害時に利用できる指定緊急避難場所からの徒歩圏内距離（雨天の徒歩避難を想定し500m圏と設定）と緊急避難場所選定基準地域（徒歩避難可能範囲＝歩行距離2km以内（国土交通省「震災に強い都市づくりの手引き」より）を基準とする。）を重ねた図面より、安茂里駅周辺にて相対的に課題のある箇所を把握する。

■ 安茂里駅周辺居住誘導区域内の土砂災害警戒区域と指定緊急避難場所徒歩圏



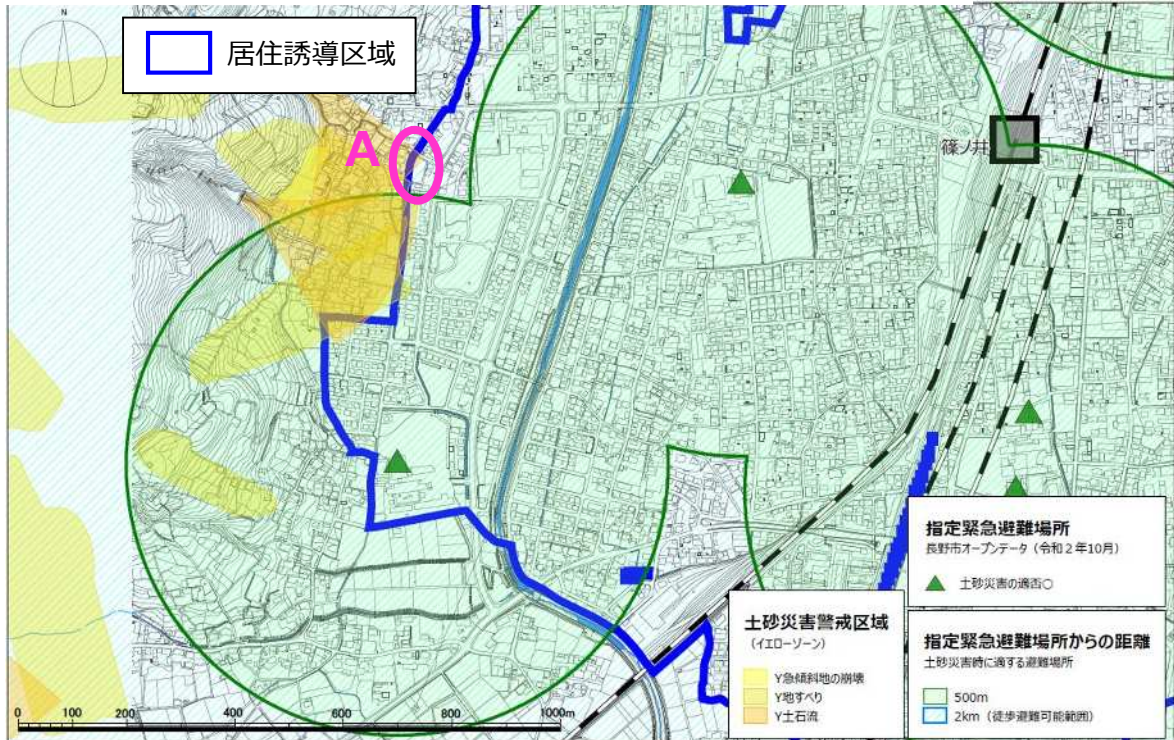
（出典：行政地図情報（長野市HPより）、平成29年度都市計画基礎調査長野市オープンデータより作成）

課題のある箇所	リスクの状況（右列はエリア共通）	
A	・土石流の発生および急傾斜地の崩壊のおそれがある。	・土砂災害の危険がある時に避難できる指定緊急避難場所（土砂災害の適否○）から離れている。
B	・急傾斜地の崩壊および地すべりのおそれがある。	
C	・広範囲にわたって土石流の発生、急傾斜地の崩壊および地すべりの全てのおそれがある。	
D	・土石流の発生、急傾斜地の崩壊および地すべりの全てのおそれがある。	

④ 篠ノ井駅周辺（西口）

居住誘導区域内の土砂災害警戒区域について、土砂災害時に利用できる指定緊急避難場所からの徒歩圏内距離（雨天の徒歩避難を想定し500m圏と設定）と緊急避難場所選定基準地域（徒歩避難可能範囲＝歩行距離2km以内（国土交通省「震災に強い都市づくりの手引き」より）を基準とする。）を重ねた図面より、篠ノ井駅周辺（西口）にて相対的に課題のある箇所を把握する。

■ 篠ノ井駅周辺居住誘導区域内の土砂災害警戒区域と指定緊急避難場所徒歩圏



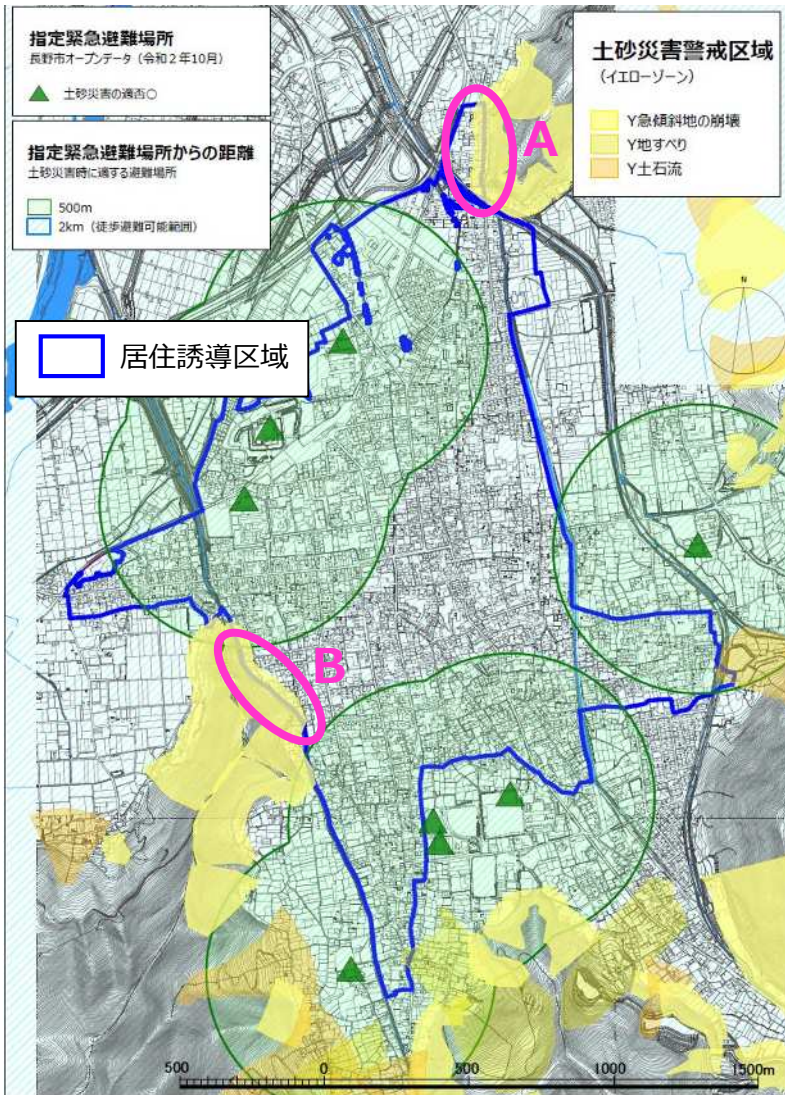
(出典：行政地図情報（長野市HPより）、平成29年度都市計画基礎調査長野市オープンデータより作成)

課題のある箇所	リスクの状況
A	<ul style="list-style-type: none"> ・土石流の発生および地すべりのおそれがある。 ・土砂災害の危険がある時に避難できる指定緊急避難場所（土砂災害の適否○）から離れている。

⑤ 松代

居住誘導区域内の土砂災害警戒区域について、土砂災害時に利用できる指定緊急避難場所からの徒歩圏内距離（雨天の徒歩避難を想定し500m圏と設定）と緊急避難場所選定基準地域（徒歩避難可能範囲＝歩行距離2km以内（国土交通省「震災に強い都市づくりの手引き」より）を基準とする。）を重ねた図面より、松代エリアにて相対的に課題のある箇所を把握する。

■ 松代エリア居住誘導区域内の土砂災害警戒区域と指定緊急避難場所徒歩圏



(出典：行政地図情報（長野市HPより）、平成29年度都市計画基礎調査長野市オープンデータより作成)

課題のある箇所	リスクの状況（右列はエリア共通）	
A	<ul style="list-style-type: none"> 急傾斜地の崩壊のおそれがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害の危険がある時に避難できる指定緊急避難場所（土砂災害の適否○）から離れている。
B		

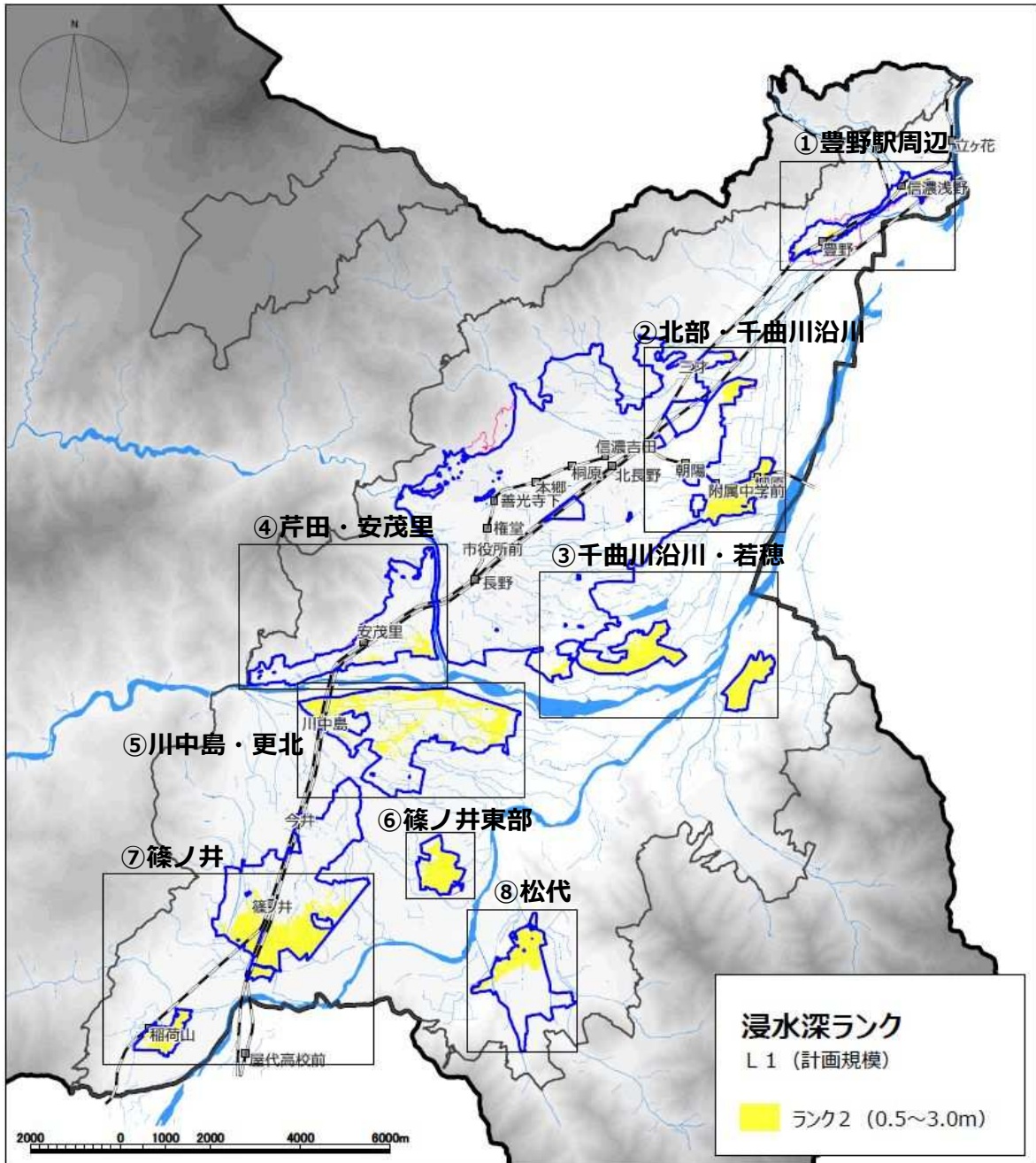
(2) エリア別の洪水浸水リスク

○ L1（計画規模降雨）時浸水ランク2以上

おおむね100年に1回程度起こる大雨時に、0.5m以上の浸水が予想される浸水深ランク2以上の地域を対象に、課題を抽出する※。

なお、浸水深が0.5m（膝）以上になるとほとんどの人が避難困難となることより（国交省、関川水害H7による調査結果）、0.5mを基準とした。

■ 居住誘導区域内のL1浸水深ランク2以上エリア

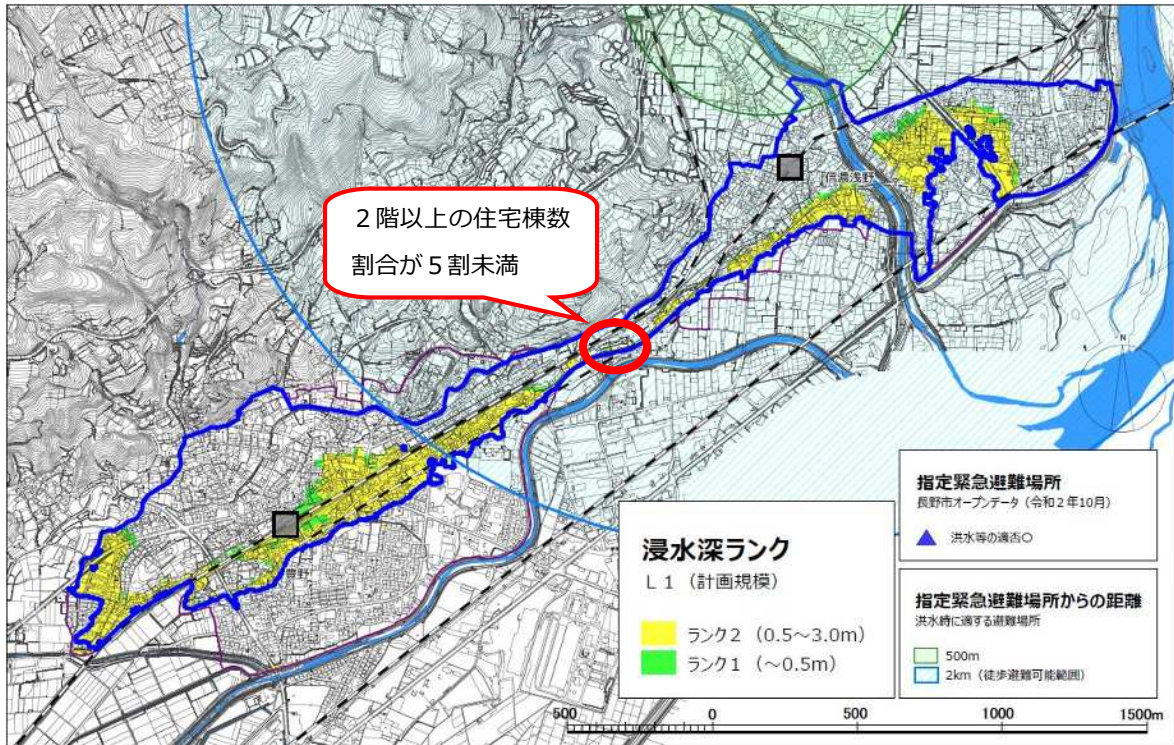


（出典：行政地図情報「L1（計画規模浸水想定）H28」
平成29年度都市計画基礎調査
長野市オープンデータより作成）

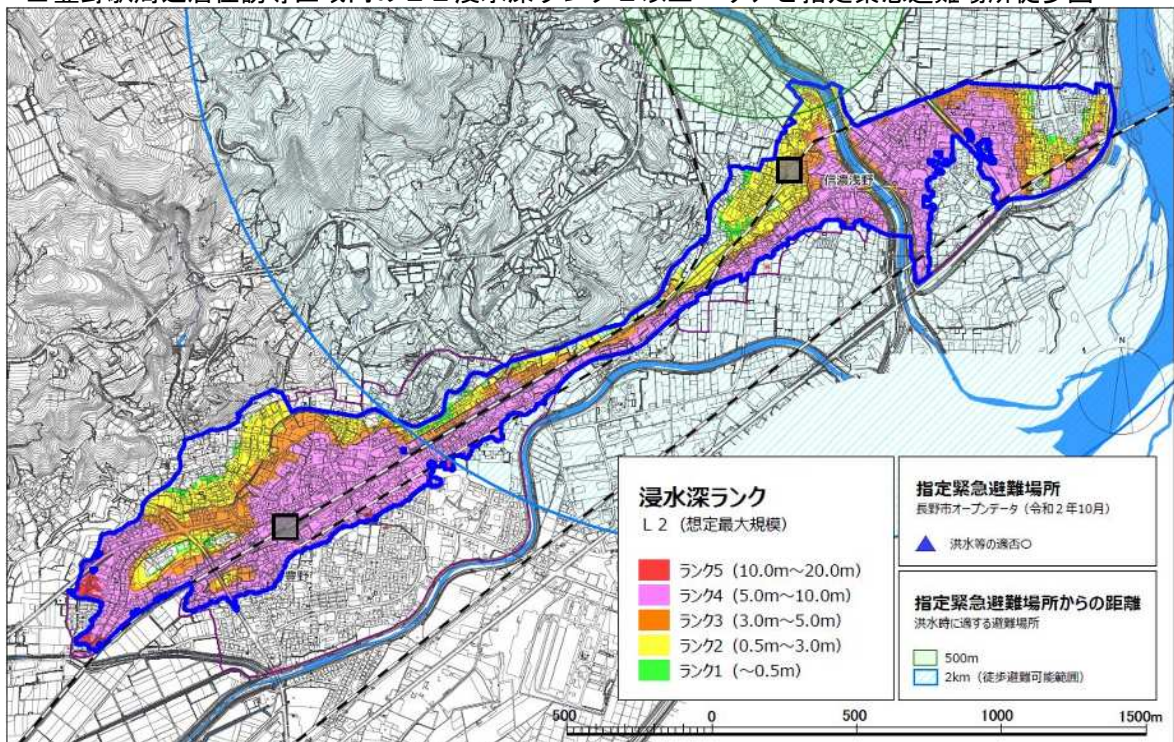
①豊野駅周辺

居住誘導区域内の浸水想定区域について、洪水に利用できる指定緊急避難場所からの徒歩圏内距離（雨天の徒歩避難を想定し500m圏と設定）と緊急避難場所選定基準地域（徒歩避難可能範囲＝歩行距離2km以内（国土交通省「震災に強い都市づくりの手引き」より）を基準とする。）を重ねた図面や、地域別垂直避難が可能な建物棟数割合より、豊野駅周辺にて課題のある箇所をL1・L2時それぞれに把握する。

■ 豊野駅周辺居住誘導区域内のL1浸水深ランク2以上エリアと指定緊急避難場所徒歩圏

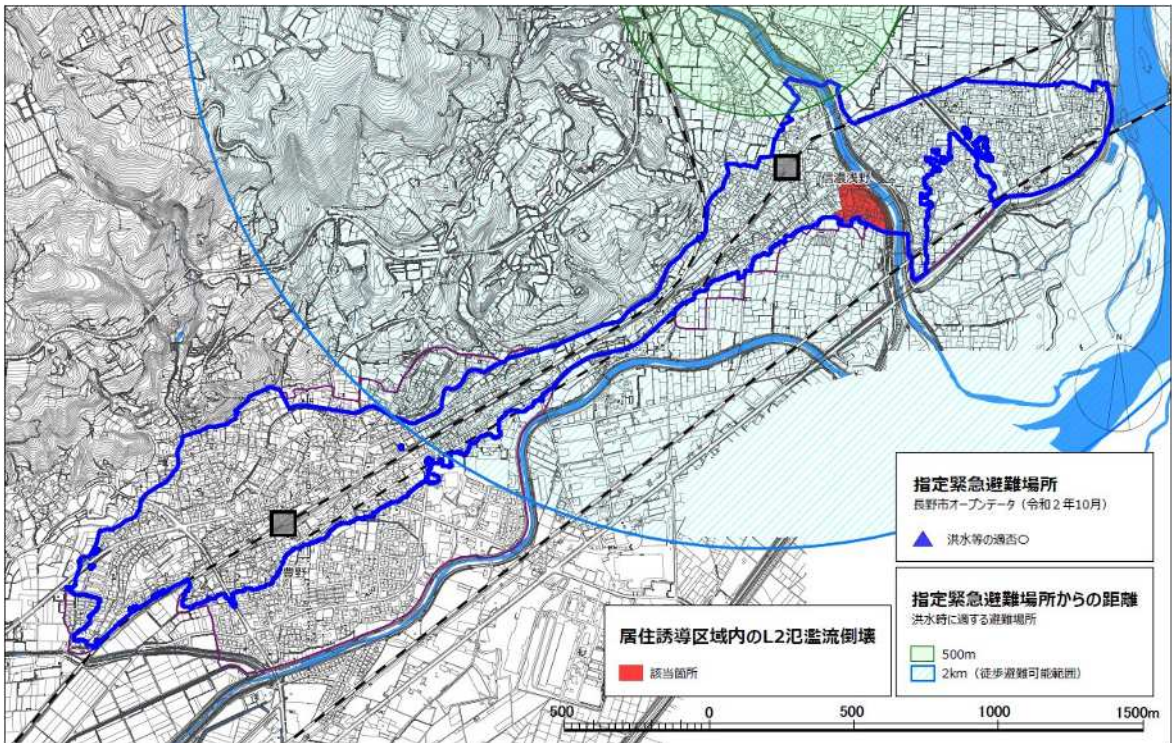


■ 豊野駅周辺居住誘導区域内のL2浸水深ランク2以上エリアと指定緊急避難場所徒歩圏



課題のある箇所		リスクの状況（右列はエリア共通）	
計画規模降雨 (L1)	想定浸水深0.5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね100年に1回程度起こる大雨時に0.5m未満の浸水のおそれがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが大部分を占める。 ・豊野駅周辺一帯に洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）の徒歩避難可能範囲外のエリアが存在する。
	想定浸水深0.5m以上3m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね100年に1回程度起こる大雨時に0.5m～3mの浸水のおそれがある。 ・一部（丸囲）2階以上の住宅棟数割合が5割未満の箇所がある。 	
想定最大規模降雨 (L2)	想定浸水深0.5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に0.5m未満の浸水のおそれがある。 	
	想定浸水深0.5m以上3m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に0.5m～3mの浸水のおそれがある。 	
	想定浸水深3m以上5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に3m～5mの浸水のおそれがある。 ・3階以上の建物が占める棟数割合はほとんどのエリアで1%未満である。 	
	想定浸水深5m以上10m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に5m～10mの浸水のおそれがある。 ・3階以上の建物が占める棟数割合はほとんどのエリアで1%未満である。 	
	想定浸水深10m以上20m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に10m～20mの浸水のおそれがある。 ・3階以上の建物が占める棟数割合はほとんどのエリアで1%未満である。 	

■ 豊野駅周辺居住誘導区域内のL2氾濫流による建物倒壊等と指定緊急避難場所徒歩圏

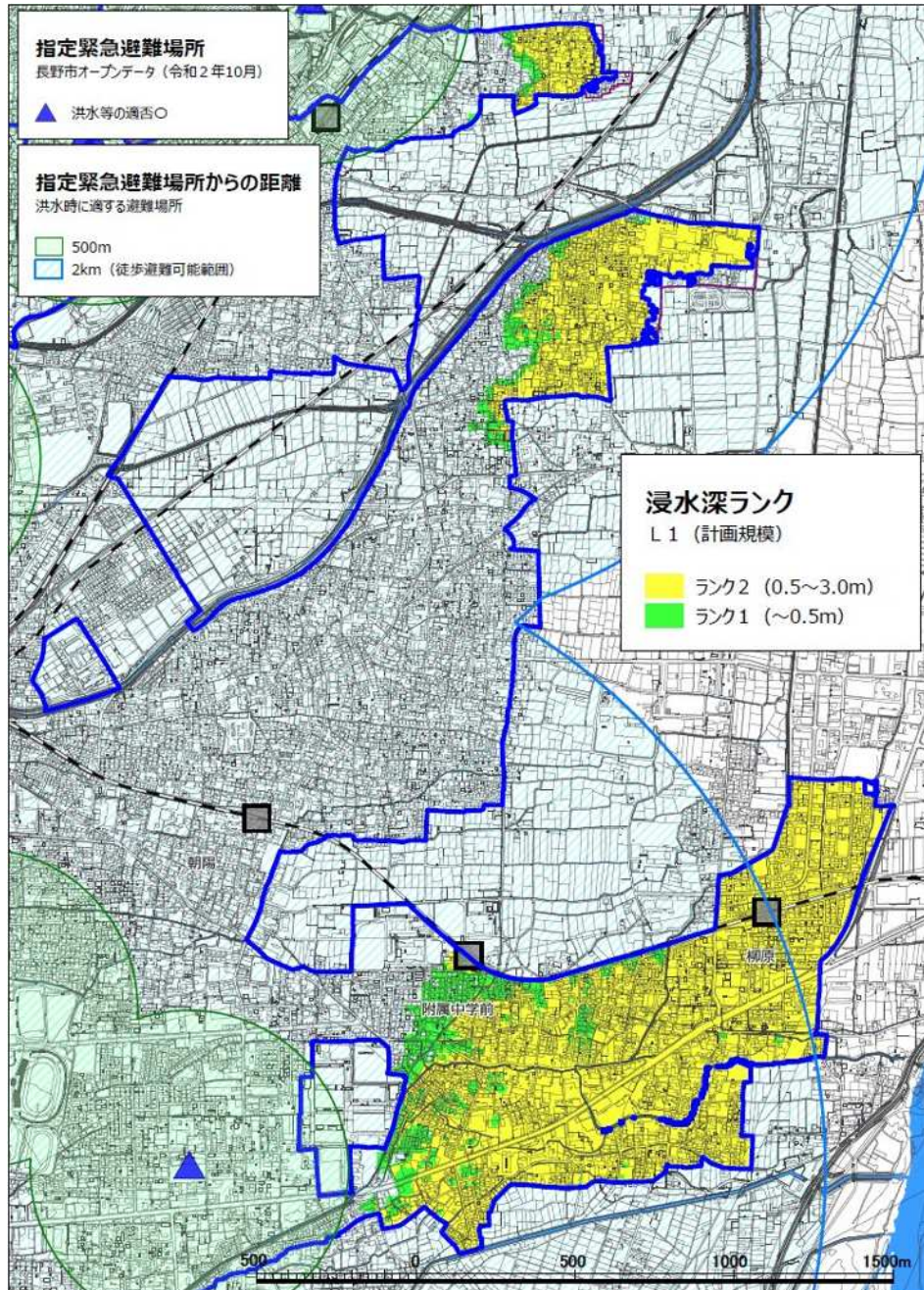


課題のある箇所	リスクの状況
氾濫流による 建物倒壊等 指定箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1000年に1 回程度の降雨時に氾濫流による建物倒壊のおそれがある。 ・ 洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが大部分を占める。 ・ 豊野駅周辺一帯に洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）の徒歩避難可能範囲外のエリアが存在する。

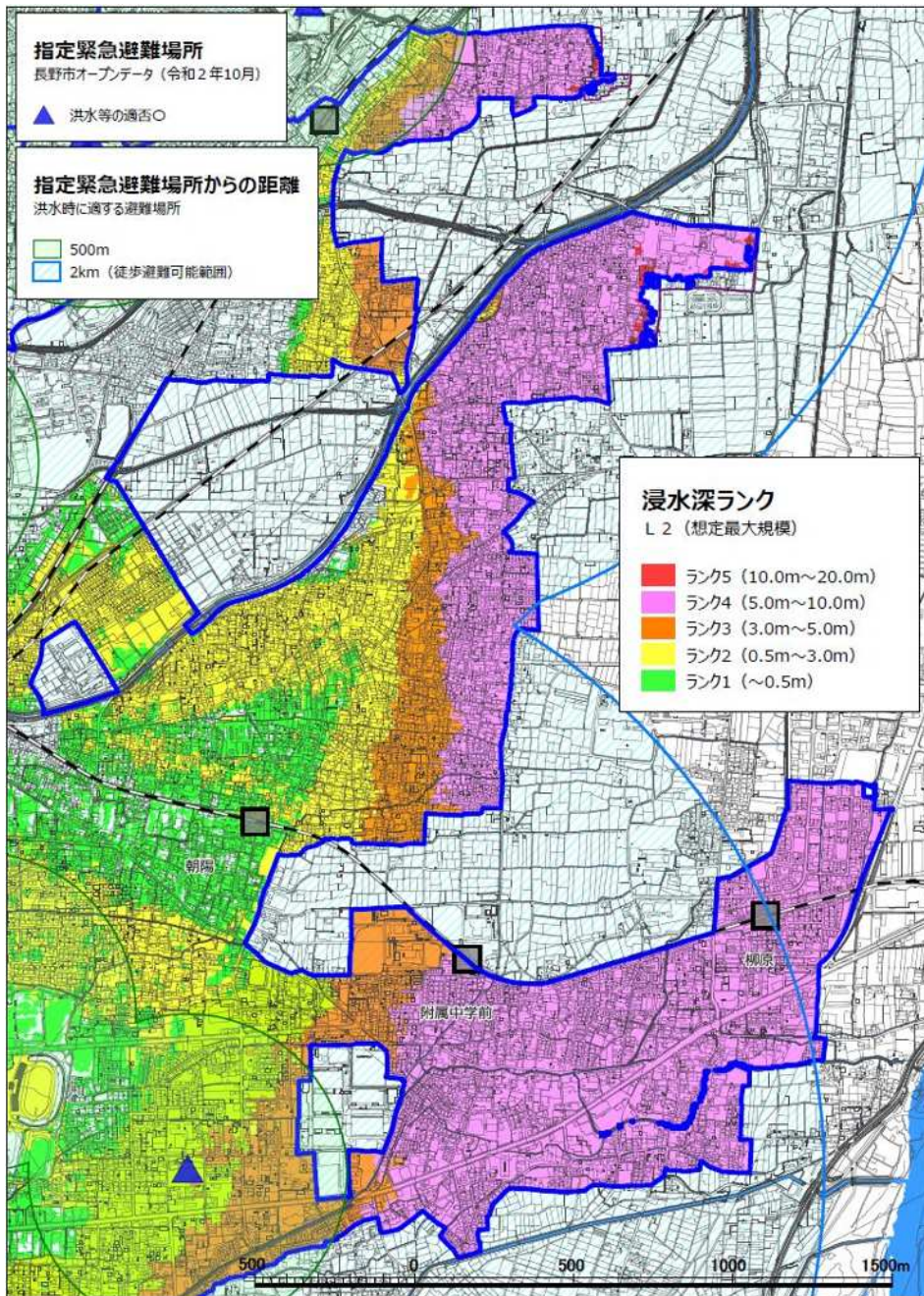
②北部・千曲川沿川

居住誘導区域内の浸水想定区域について、洪水時に利用できる指定緊急避難場所からの徒歩圏内距離（雨天の徒歩避難を想定し500m圏と設定）と緊急避難場所選定基準地域（徒歩避難可能範囲＝歩行距離2km以内（国土交通省「震災に強い都市づくりの手引き」より）を基準とする。）を重ねた図面や、垂直避難が可能な建物棟数の地域別割合より、北部・千曲川沿川エリアにて課題のある箇所をL1・L2時それぞれに把握する。

■ 北部・千曲川沿川居住誘導区域内のL1浸水深ランク2以上エリアと指定緊急避難場所徒歩圏

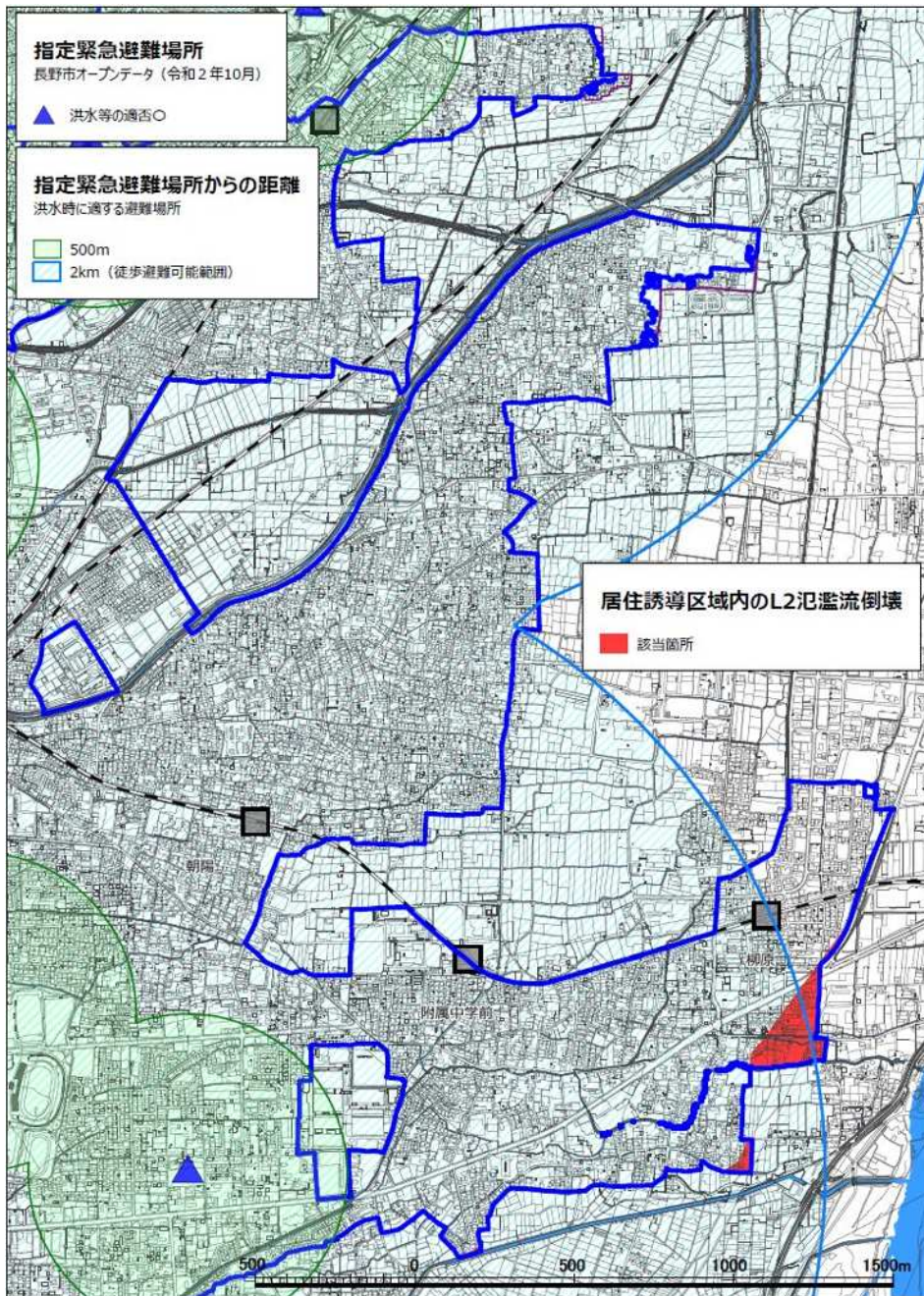


■ 北部・千曲川沿川居住誘導区域内のL2浸水深ランク2以上エリアと指定緊急避難場所徒歩圏



課題のある箇所		リスクの状況（右列はエリア共通）	
計画規模降雨 (L1)	想定浸水深0.5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね100年に1回程度起こる大雨時に0.5m未満の浸水のおそれがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れている。
	想定浸水深0.5m以上3m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね100年に1回程度起こる大雨時に0.5m～3mの浸水のおそれがある。 ・柳原駅の東側に洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）の徒歩避難可能範囲外のエリアが存在する。 	
想定最大規模降雨 (L2)	想定浸水深0.5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に0.5m未満の浸水のおそれがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが大部分を占める。
	想定浸水深0.5m以上3m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に0.5m～3mの浸水のおそれがある。 	
	想定浸水深3m以上5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に3m～5mの浸水のおそれがある。 ・3m以上の浸水のおそれがある地域において、3階以上の建物が占める割合が2%未満である。 	
	想定浸水深5m以上10m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に5m～10mの浸水のおそれがある。 	
	想定浸水深10m以上20m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に10m～20mの浸水のおそれがある。 ・柳原駅の東側に洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）の徒歩避難可能範囲外のエリアが存在する。 	

■ 北部・千曲川沿川居住誘導区域内のL2氾濫流による建物倒壊等と指定緊急避難場所徒歩圏

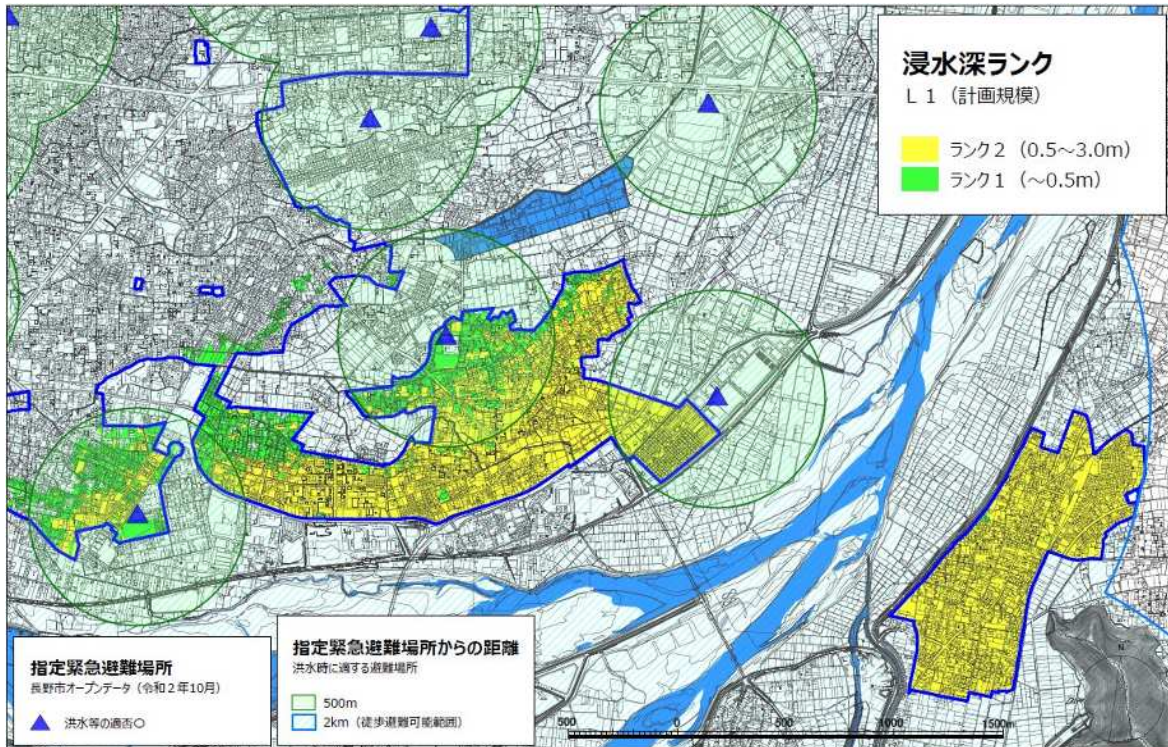


課題のある箇所	リスクの状況
氾濫流による建物倒壊等指定箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1000年に1回程度の降雨時に氾濫流による建物倒壊のおそれがある。 ・ 洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れている。 ・ 柳原駅の南東に洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）の徒歩避難可能範囲外のエリアが存在する。

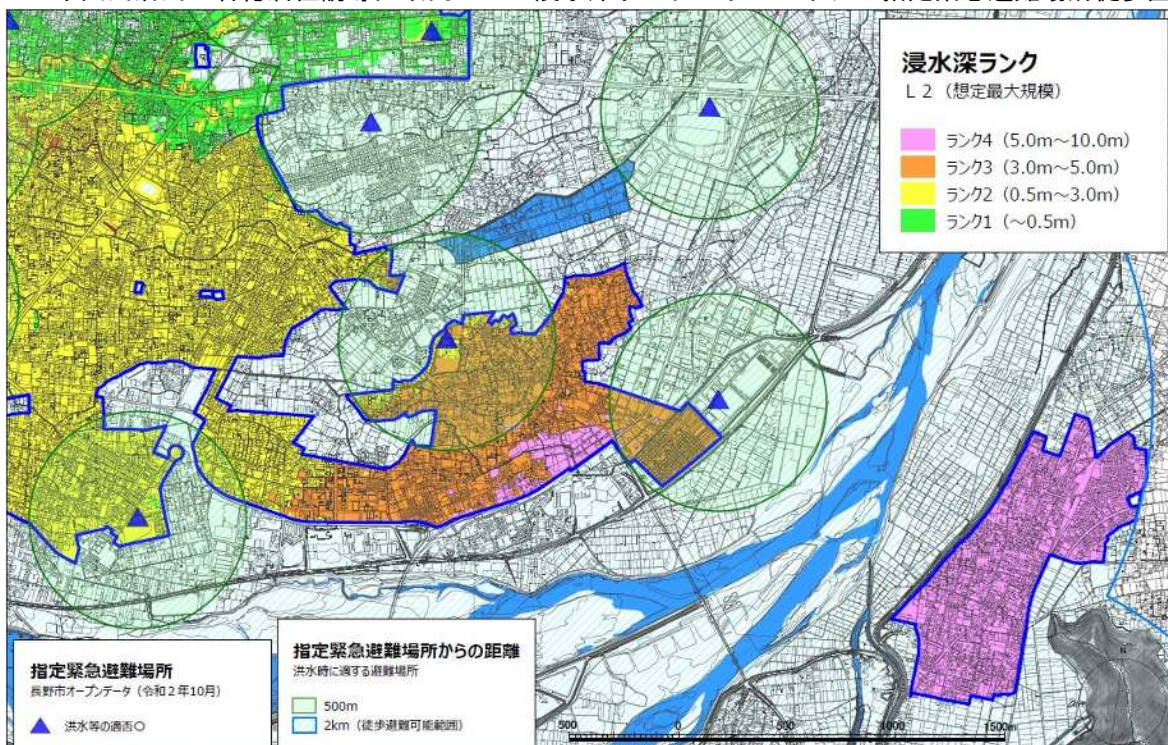
③千曲川沿川・若穂

居住誘導区域内の浸水想定区域について、洪水時に利用できる指定緊急避難場所からの徒歩圏内距離（雨天の徒歩避難を想定し500m圏と設定）と緊急避難場所選定基準地域（徒歩避難可能範囲＝歩行距離2km以内（国土交通省「震災に強い都市づくりの手引き」より）を基準とする。）を重ねた図面や、垂直避難が可能な建物棟数の地域別割合より、千曲川沿川・若穂エリアにて課題のある箇所をL1・L2時それぞれに把握する。

■千曲川沿川・若穂居住誘導区域内のL1浸水深ランク2以上エリアと指定緊急避難場所徒歩圏

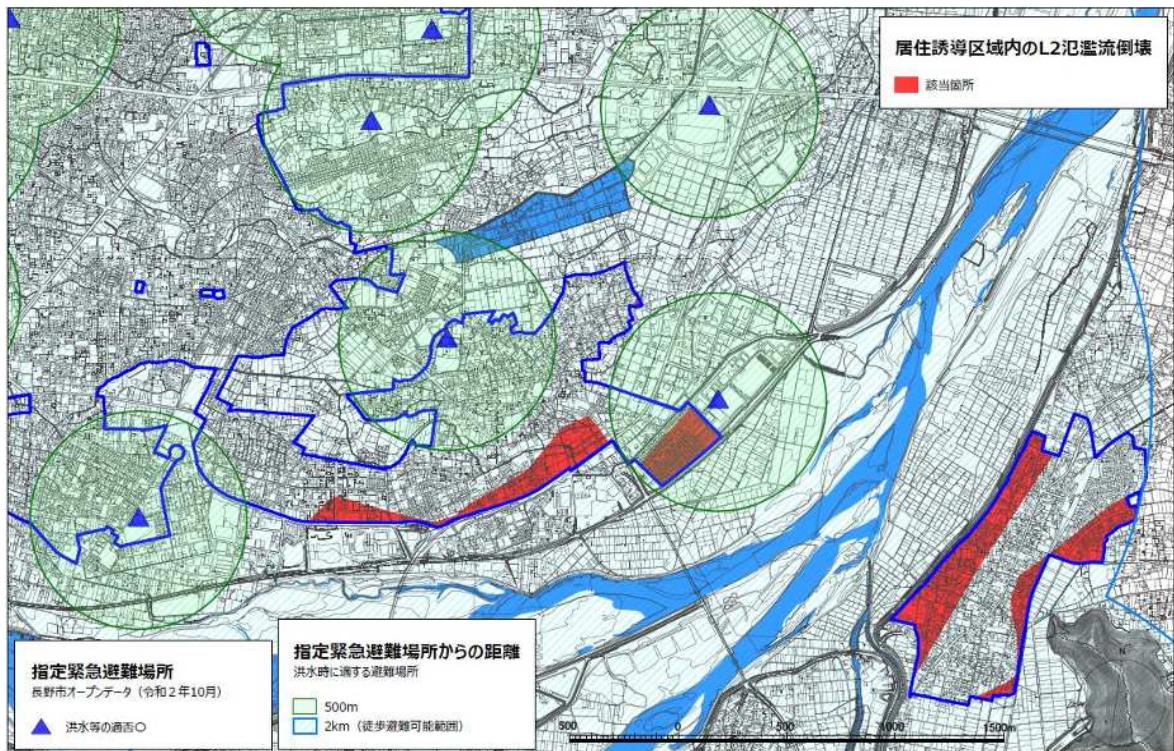


■千曲川沿川・若穂居住誘導区域内のL2浸水深ランク2以上エリアと指定緊急避難場所徒歩圏



課題のある箇所		リスクの状況
計画規模 降雨 (L1)	想定浸水深0.5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね100年に1回程度起こる大雨時に0.5m未満の浸水のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが半数程度ある。
	想定浸水深0.5m以上 3m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね100年に1回程度起こる大雨時に0.5m～3mの浸水のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが大部分を占める。
想定最大 規模降雨 (L2)	想定浸水深0.5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に0.5m未満の浸水のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが半数程度ある。
	想定浸水深0.5m以上 3m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に0.5m～3mの浸水のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが大部分を占める。
	想定浸水深3m以上 5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に3m～5mの浸水のおそれがある。 ・3m以上の浸水のおそれがある地域において、3階以上の建物が占める割合が2%未満である。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが半数程度ある。
	想定浸水深5m以上 10m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に5m～10mの浸水のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れている。

■ 千曲川沿川・若穂居住誘導区域内のL2氾濫流による建物倒壊等と指定緊急避難場所徒歩圏



課題のある箇所	リスクの状況
氾濫流による 建物倒壊等 指定箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に氾濫流による建物倒壊のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが大部分を占める。（一部地域は最寄りの避難場所に行くために河川を超える必要がある）

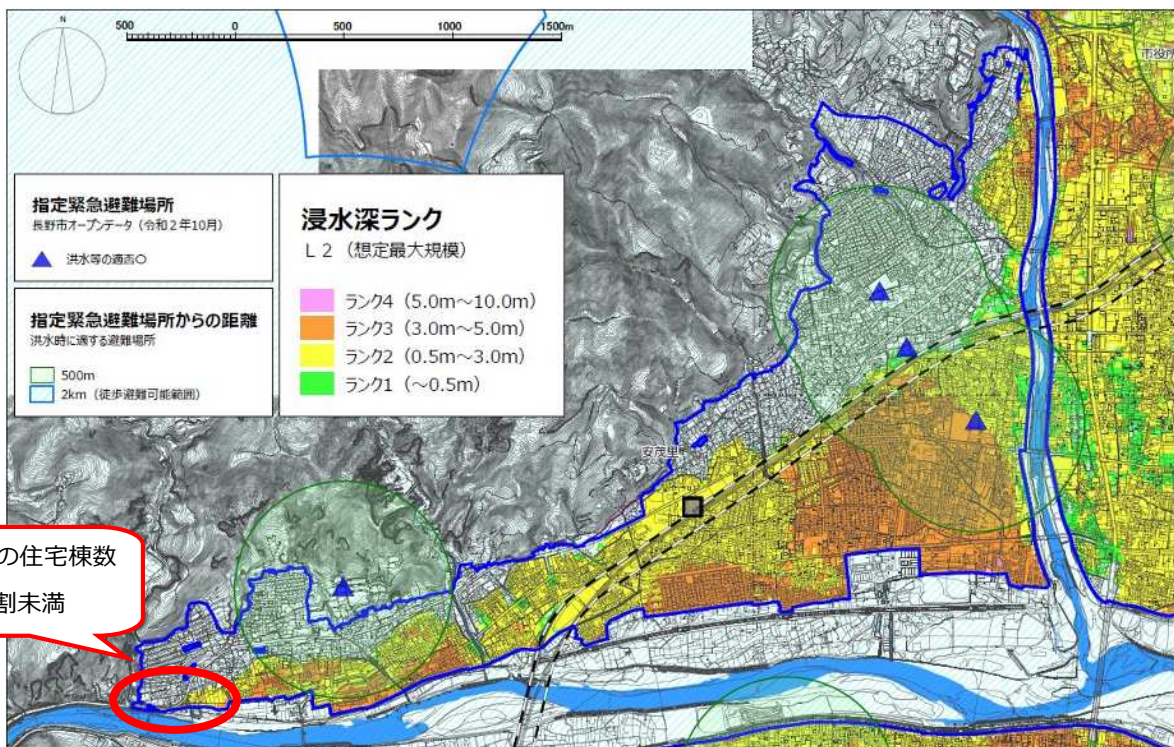
④ 芹田・安茂里

居住誘導区域内の浸水想定区域について、洪水時に利用できる指定緊急避難場所からの徒歩圏内距離（雨天の徒歩避難を想定し500m圏と設定）と緊急避難場所選定基準地域（徒歩避難可能範囲＝歩行距離2km以内（国土交通省「震災に強い都市づくりの手引き」より）を基準とする。）を重ねた図面や、垂直避難が可能な建物棟数の地域別割合より、芹田・安茂里エリアにて課題のある箇所をL1・L2時それぞれに把握する。

■ 芹田・安茂里エリア居住誘導区域内のL1浸水深ランク2以上エリアと指定緊急避難場所徒歩圏



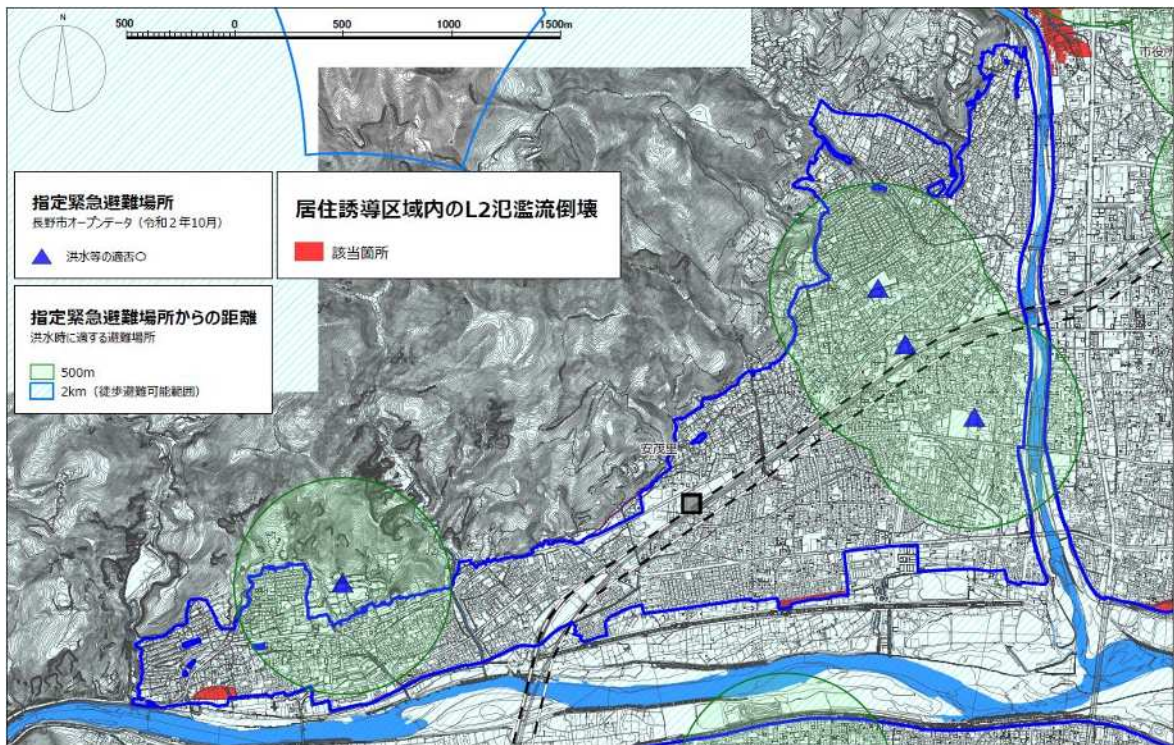
■ 芹田・安茂里エリア居住誘導区域内のL2浸水深ランク2以上エリアと指定緊急避難場所徒歩圏



2階以上の住宅棟数
割合が5割未満

課題のある箇所		リスクの状況
計画規模 降雨 (L1)	想定浸水深0.5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね100年に1回程度起こる大雨時に0.5m未満の浸水のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが半数程度ある。
	想定浸水深0.5m以上 3m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね100年に1回程度起こる大雨時に0.5m～3mの浸水のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが大半を占める。
想定最大 規模降雨 (L2)	想定浸水深0.5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に0.5m未満の浸水のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが半数程度ある。
	想定浸水深0.5m以上 3m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に0.5m～3mの浸水のおそれがある。 ・一部（丸囲）2階以上の住宅棟数割合が5割未満の箇所がある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが大半を占める。
	想定浸水深3m以上 5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に0.5m～20mの浸水のおそれがある。 ・3m以上の浸水のおそれがある地域において、3階以上の建物が占める割合は3%未満である。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが半数程度ある。
	想定浸水深5m以上 10m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に5m～10mの浸水のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れている。

■ 芹田・安茂里エリア居住誘導区域内のL2氾濫流による建物倒壊等と指定緊急避難場所徒歩圏

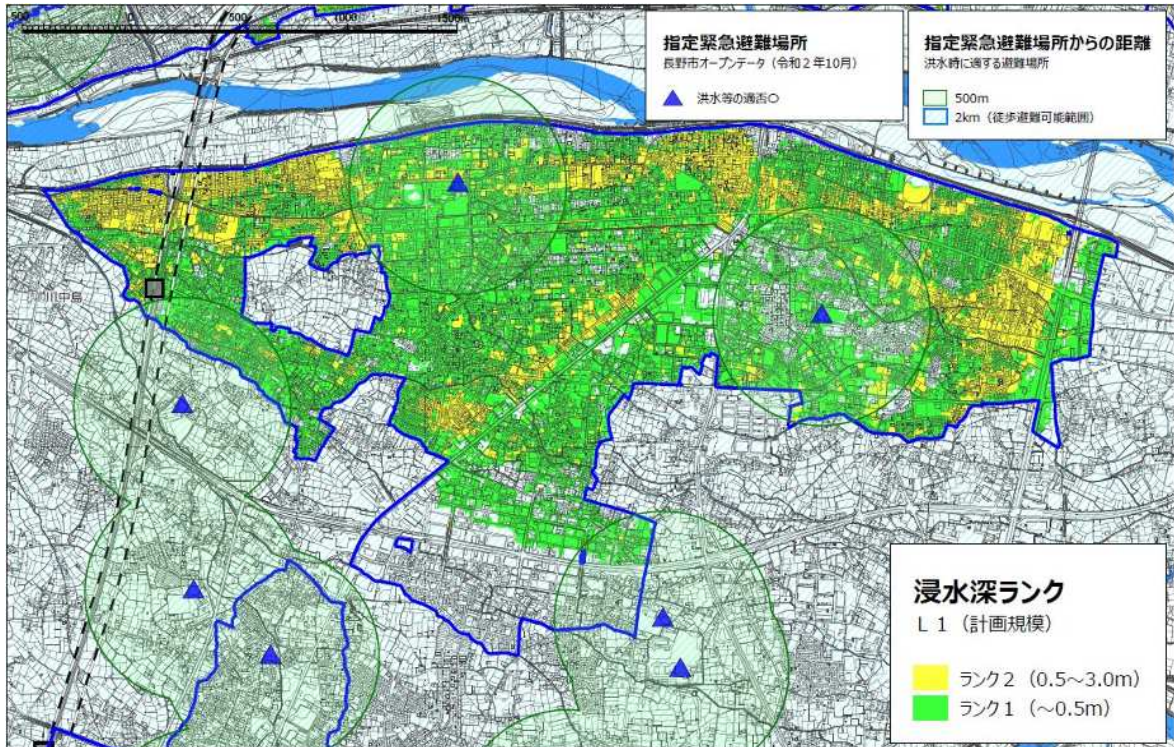


課題のある箇所	リスクの状況
氾濫流による建物倒壊等指定箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1000年に1回程度の降雨時に氾濫流による建物倒壊のおそれがある。 ・ 洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れている。

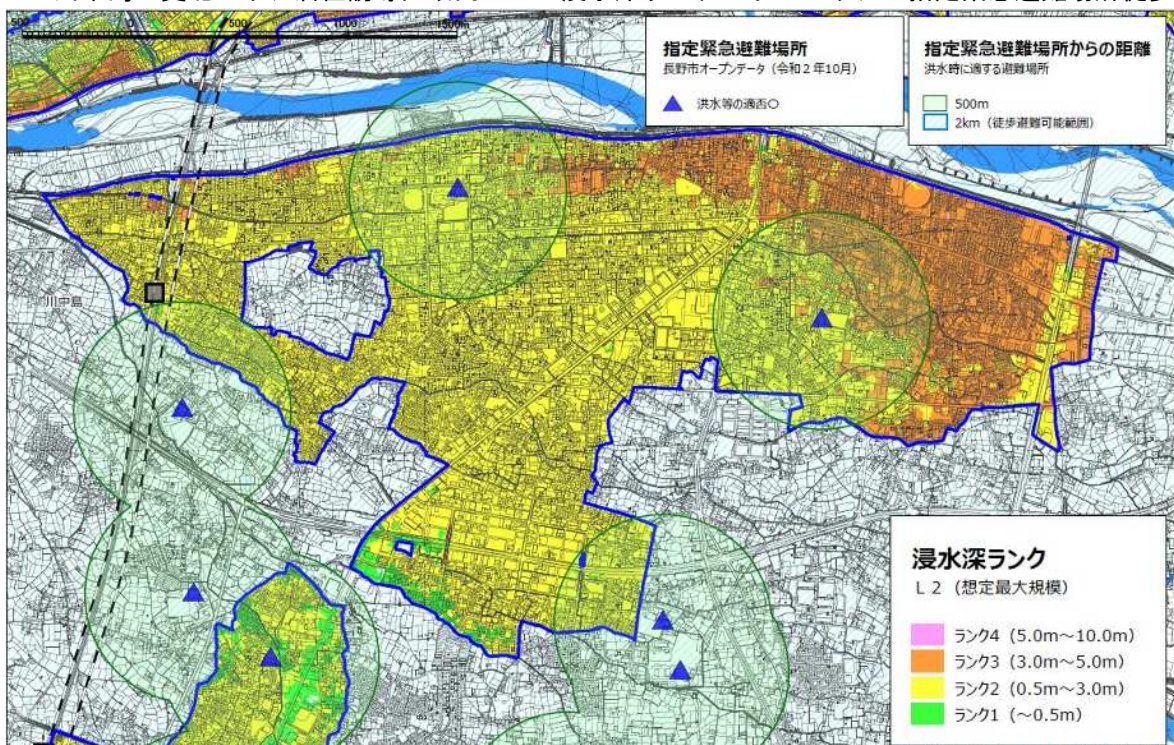
⑤川中島・更北

居住誘導区域内の浸水想定区域について、洪水時に利用できる指定緊急避難場所からの徒歩圏内距離（雨天の徒歩避難を想定し500m圏と設定）と緊急避難場所選定基準地域（徒歩避難可能範囲＝歩行距離2km以内（国土交通省「震災に強い都市づくりの手引き」より）を基準とする。）を重ねた図面や、垂直避難が可能な建物棟数の地域別割合より、川中島・更北エリアにて課題のある箇所をL1・L2時それぞれに把握する。

■川中島・更北エリア居住誘導区域内のL1浸水深ランク2以上エリアと指定緊急避難場所徒歩圏

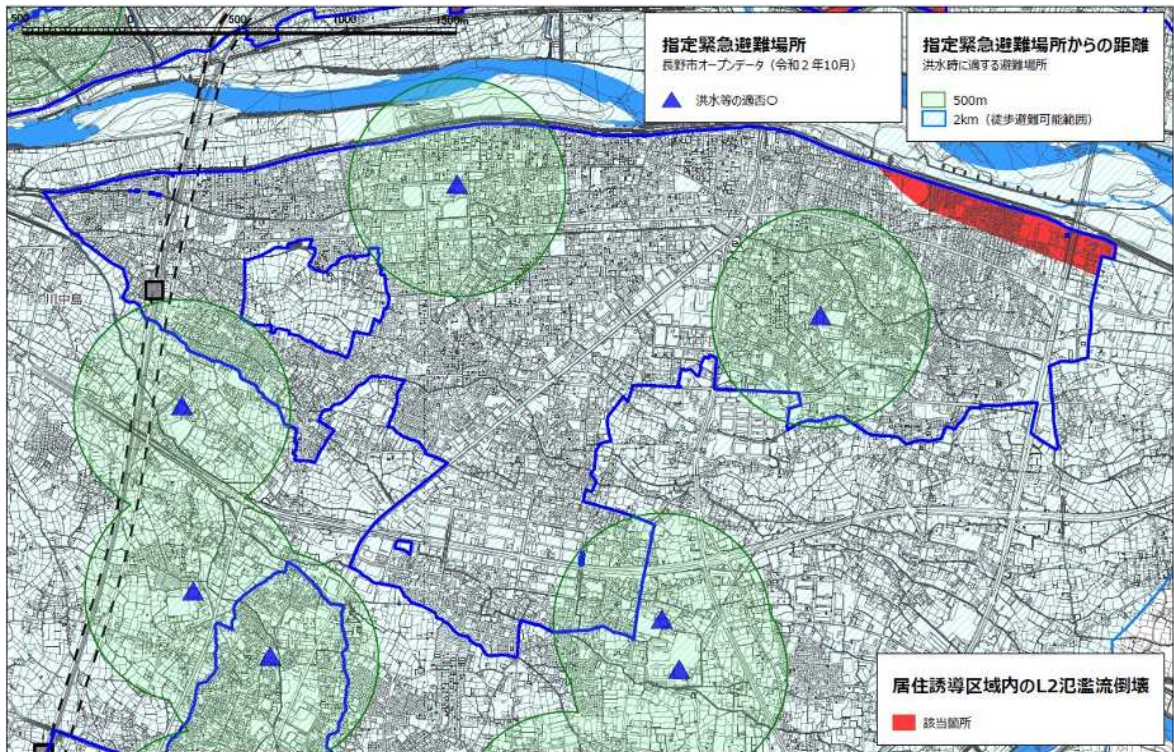


■川中島・更北エリア居住誘導区域内のL2浸水深ランク2以上エリアと指定緊急避難場所徒歩圏



課題のある箇所		リスクの状況（右列はエリア共通）	
計画規模降雨 (L1)	想定浸水深0.5m未満	・おおむね100年に1回程度起こる大雨時に0.5m未満の浸水のおそれがある。	・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが大部分を占める。
	想定浸水深0.5m以上3m未満	・おおむね100年に1回程度起こる大雨時に0.5m～3mの浸水のおそれがある。	
想定最大規模降雨 (L2)	想定浸水深0.5m未満	・1000年に1回程度の降雨時に0.5m未満の浸水のおそれがある。	・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが大部分を占める。
	想定浸水深0.5m以上3m未満	・1000年に1回程度の降雨時に0.5m～3mの浸水のおそれがある。	
	想定浸水深3m以上5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に3m～5mの浸水のおそれがある。 ・3m以上の浸水のおそれがある地域において、3階以上の建物が占める割合は5%未満である。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが大半を占める。 	
	想定浸水深5m以上10m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に5m～10mの浸水のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが若干存在する。 	

■ 川中島・更北居住誘導区域内のL2氾濫流による建物倒壊等と指定緊急避難場所徒歩圏

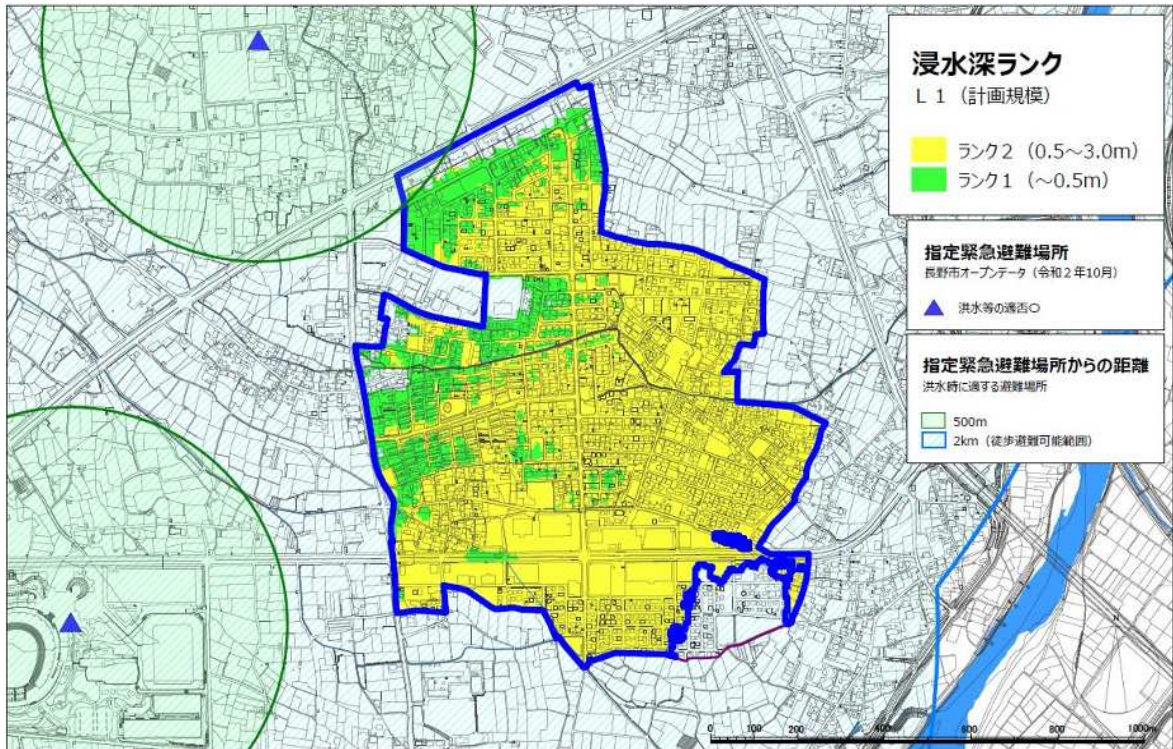


課題のある箇所	リスクの状況
氾濫流による建物倒壊等指定箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に氾濫流による建物倒壊のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れている。

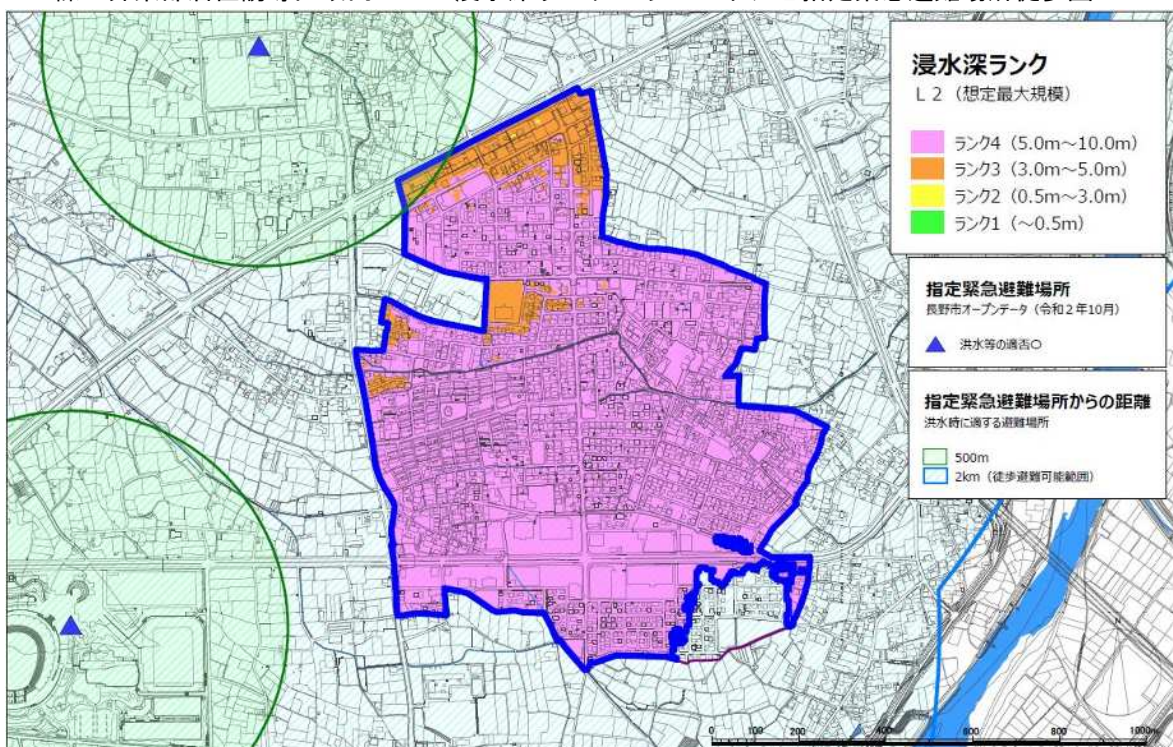
⑥ 篠ノ井東部

居住誘導区域内の浸水想定区域について、洪水時に利用できる指定緊急避難場所からの徒歩圏内距離（雨天の徒歩避難を想定し500m圏と設定）と緊急避難場所選定基準地域（徒歩避難可能範囲＝歩行距離2km以内（国土交通省「震災に強い都市づくりの手引き」より）を基準とする。）を重ねた図面や、垂直避難が可能な建物棟数の地域別割合より、篠ノ井東部エリアにて課題のある箇所をL1・L2時それぞれに把握する。

■ 篠ノ井東部居住誘導区域内のL1浸水深ランク2以上エリアと指定緊急避難場所徒歩圏

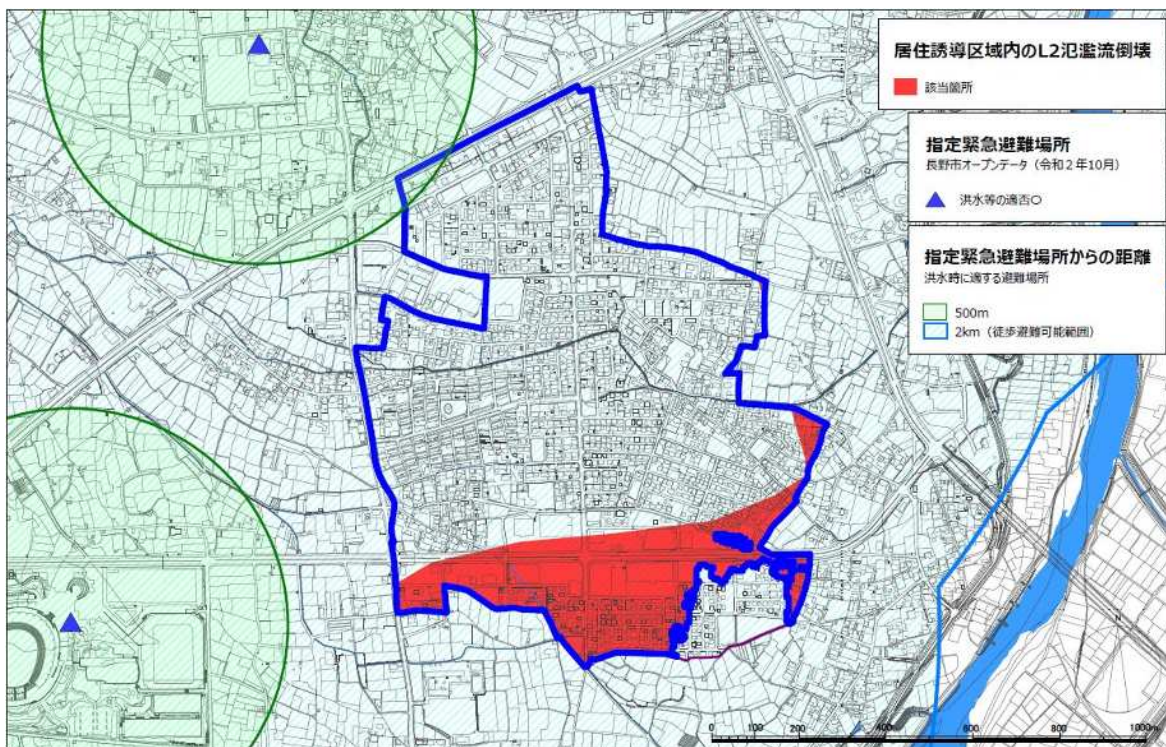


■ 篠ノ井東部居住誘導区域内のL2浸水深ランク2以上エリアと指定緊急避難場所徒歩圏



課題のある箇所		リスクの状況（右列はエリア共通）	
計画規模降雨（L1）	想定浸水深0.5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね100年に1回程度起こる大雨時に0.5m未満の浸水のおそれがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れている。
	想定浸水深0.5m以上3m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね100年に1回程度起こる大雨時に0.5m～3mの浸水のおそれがある。 	
想定最大規模降雨（L2）	想定浸水深0.5m以上3m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に0.5m～3mの浸水のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れている。 	
	想定浸水深3m以上5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に0.5m～20mの浸水のおそれがある。 ・3m以上の浸水のおそれがある地域において、3階以上の建物が占める割合は1%未満である。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが大部分を占める。 	
	想定浸水深5m以上10m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に5m～10mの浸水のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れている。 	

■ 篠ノ井東部居住誘導区域内のL2氾濫流による建物倒壊等と指定緊急避難場所徒歩圏

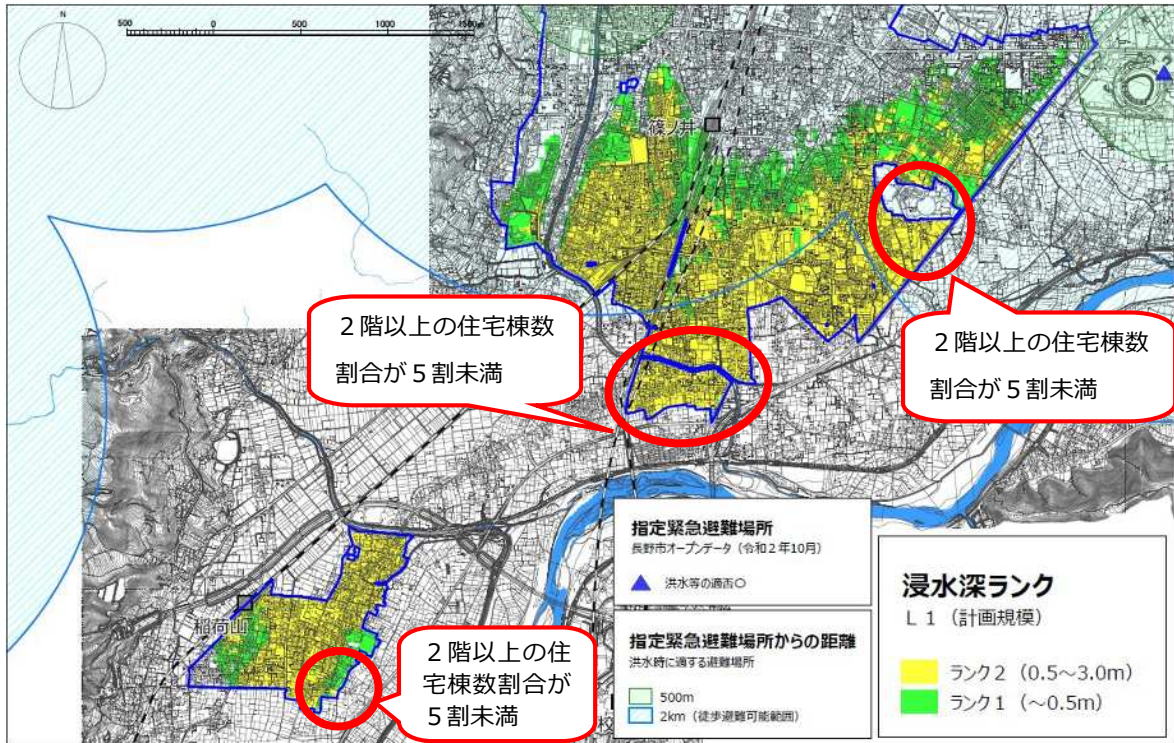


課題のある箇所	リスクの状況
氾濫流による建物倒壊等指定箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1000年に1回程度の降雨時に氾濫流による建物倒壊のおそれがある。 ・ 洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れている。

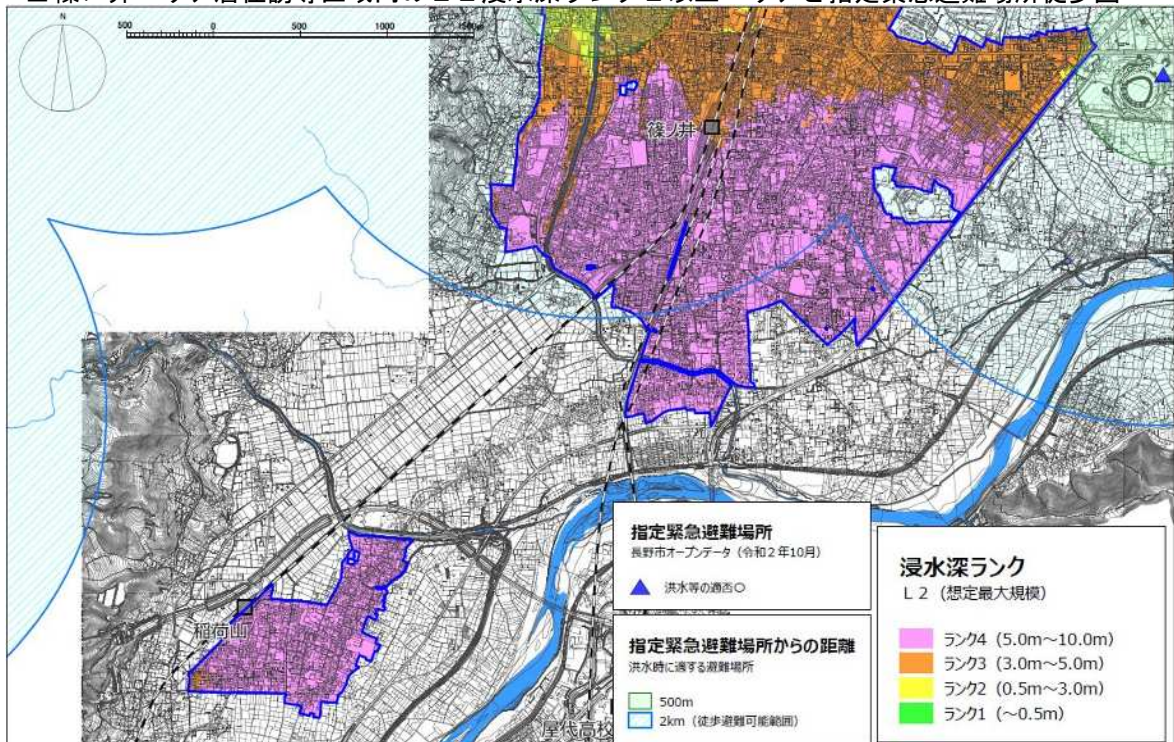
⑦篠ノ井

居住誘導区域内の浸水想定区域について、洪水時に利用できる指定緊急避難場所からの徒歩圏内距離（雨天の徒歩避難を想定し500m圏と設定）と緊急避難場所選定基準地域（徒歩避難可能範囲＝歩行距離2km以内（国土交通省「震災に強い都市づくりの手引き」より）を基準とする。）を重ねた図面や、垂直避難が可能な建物棟数の地域別割合より、篠ノ井エリアにて課題のある箇所をL1・L2時それぞれに把握する。

■篠ノ井エリア居住誘導区域内のL1浸水深ランク2以上エリアと指定緊急避難場所徒歩圏



■篠ノ井エリア居住誘導区域内のL2浸水深ランク2以上エリアと指定緊急避難場所徒歩圏



課題のある箇所		リスクの状況（右列はエリア共通）	
計画規模降雨（L1）	想定浸水深0.5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね100年に1回程度起こる大雨時に0.5m未満の浸水のおそれがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れている。
	想定浸水深0.5m以上3m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね100年に1回程度起こる大雨時に0.5m～3mの浸水のおそれがある。 ・一部（丸囲）2階以上の住宅棟数割合が5割未満の箇所がある。 	
想定最大規模降雨（L2）	想定浸水深0.5m以上3m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に0.5m～3mの浸水のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが一部ある。 	
	想定浸水深3m以上5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に3m～5mの浸水のおそれがある。 ・3m以上の浸水のおそれがある地域において、3階以上の建物が占める割合は4%未満である。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが大部分を占める。 	
	想定浸水深5m以上10m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に5m～10mの浸水のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れている。 	

■ 篠ノ井エリア居住誘導区域内のL2氾濫流による建物倒壊等と指定緊急避難場所徒歩圏

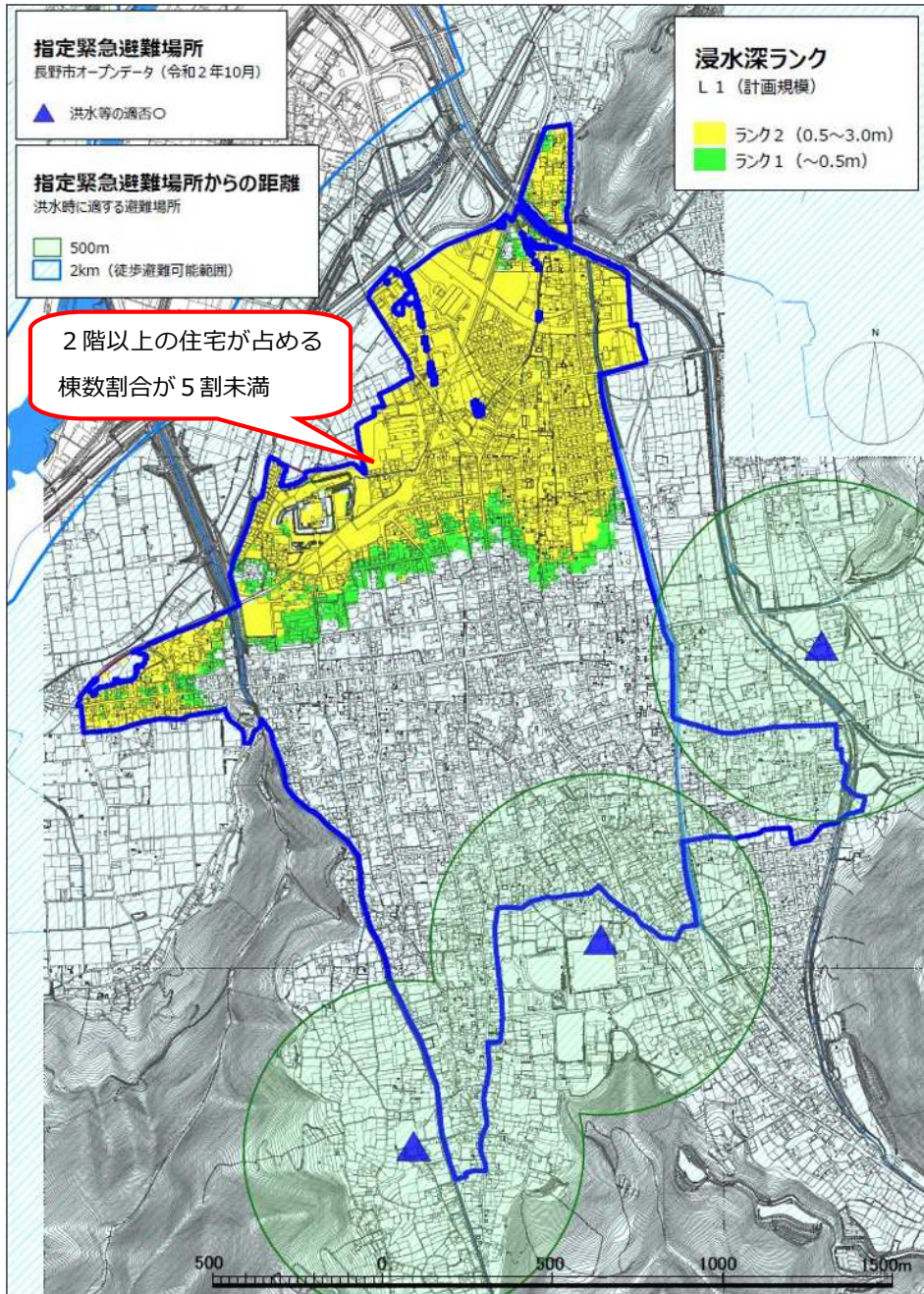


課題のある箇所	リスクの状況
氾濫流による建物倒壊等指定箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1000年に1回程度の降雨時に氾濫流による建物倒壊のおそれがある。 ・ 洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れている。 ・ 一部（丸囲）洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）の徒歩避難可能範囲外のエリアが存在する。

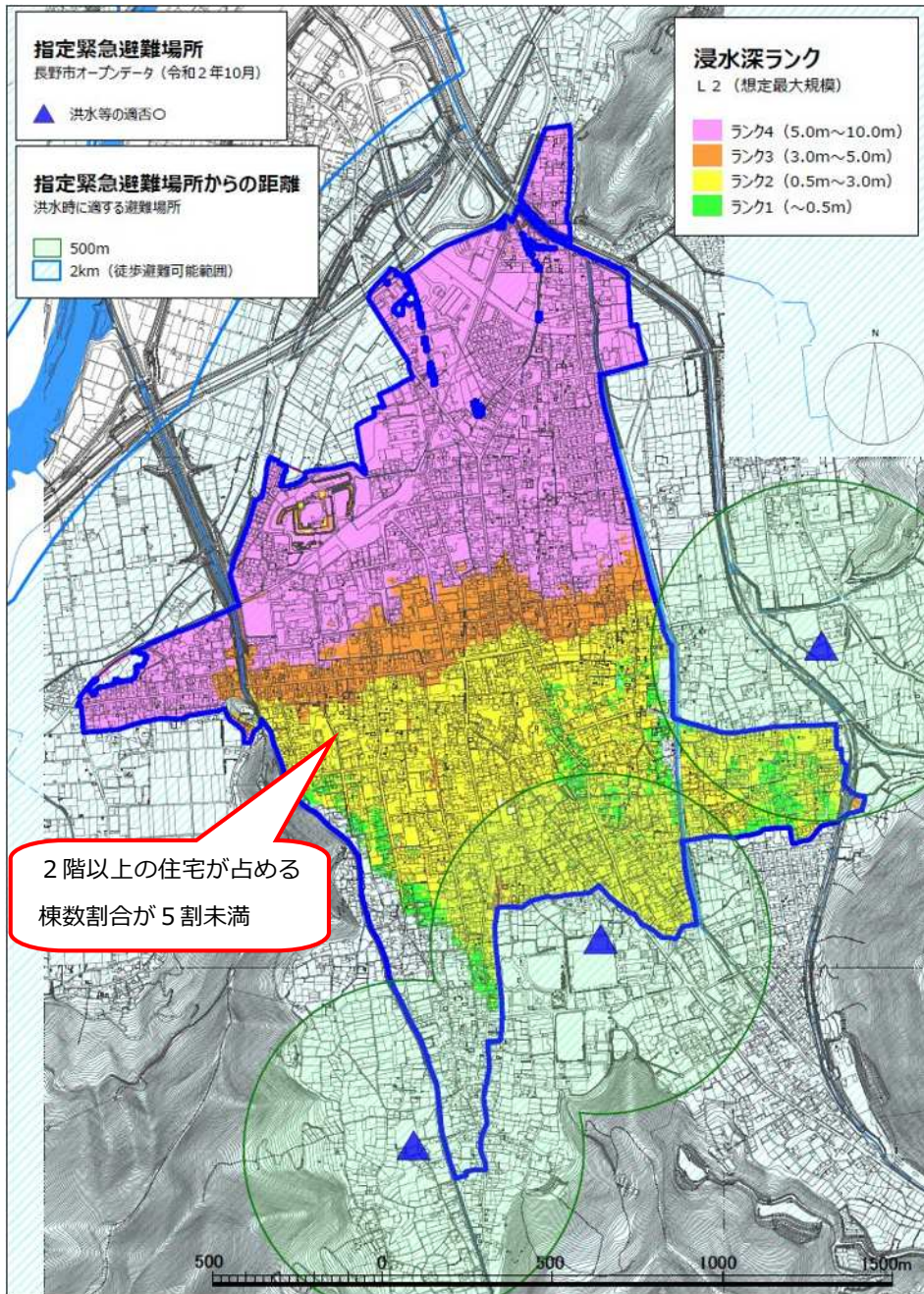
⑧松代

居住誘導区域内の浸水想定区域について、洪水時に利用できる指定緊急避難場所からの徒歩圏内距離（雨天の徒歩避難を想定し500m圏と設定）と緊急避難場所選定基準地域（徒歩避難可能範囲＝歩行距離2km以内（国土交通省「震災に強い都市づくりの手引き」より）を基準とする。）を重ねた図面や、垂直避難が可能な建物棟数の地域別割合より、松代エリアにて課題のある箇所をL1・L2時それぞれに把握する。

■松代エリア居住誘導区域内のL1浸水深ランク2以上エリアと指定緊急避難場所徒歩圏

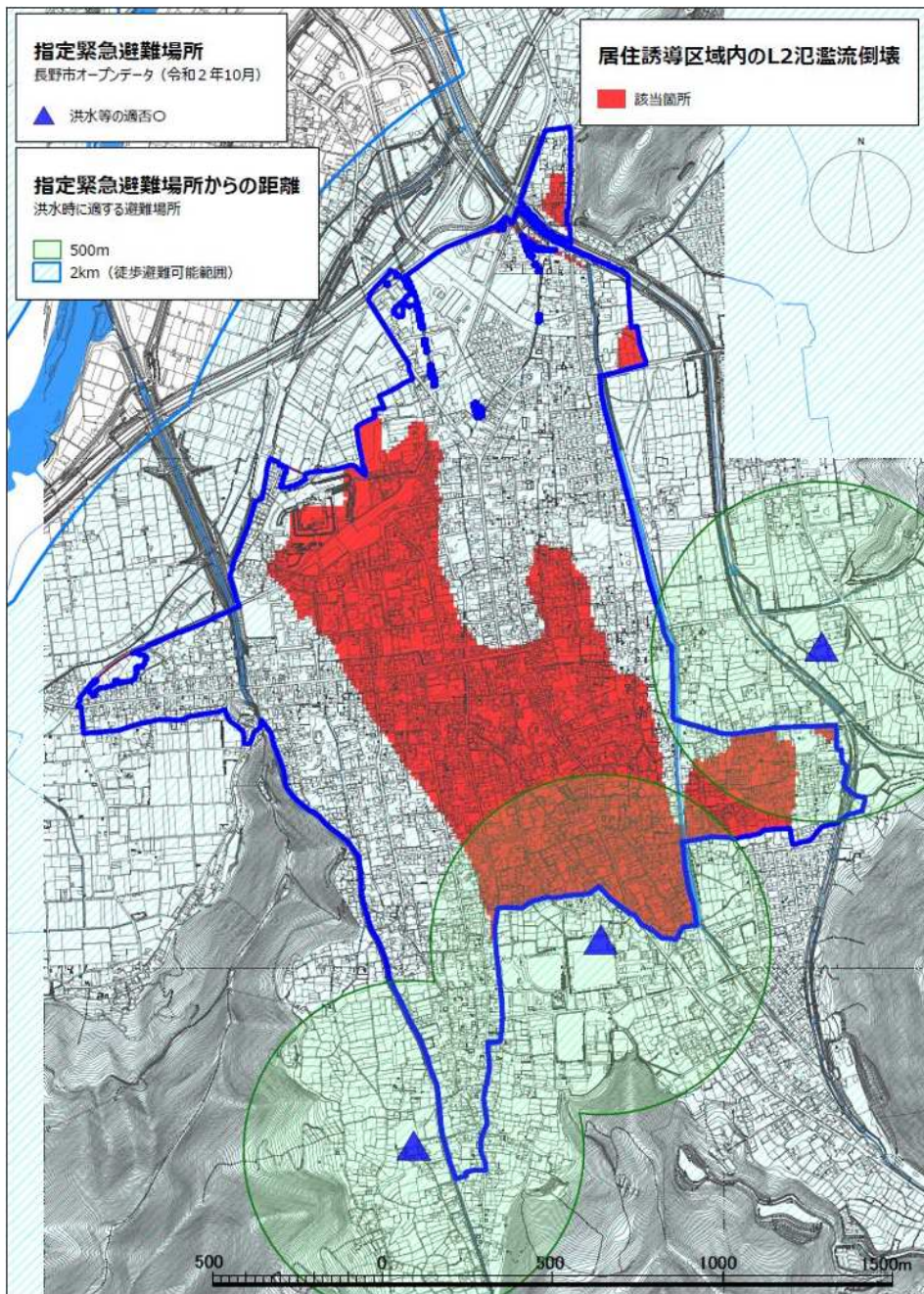


■ 松代エリア居住誘導区域内のL2浸水深ランク2以上エリアと指定緊急避難場所徒歩圏



課題のある箇所		リスクの状況（右列はエリア共通）	
計画規模降雨 (L1)	想定浸水深0.5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね100年に1回程度起こる大雨時に0.5m未満の浸水のおそれがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れている。
	想定浸水深0.5m以上3m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね100年に1回程度起こる大雨時に0.5m～3mの浸水のおそれがある。 ・2階以上の住宅が占める棟数割合は5割未満である。 	
想定最大規模降雨 (L2)	想定浸水深0.5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に0.5m未満の浸水のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが半数を占める。 	
	想定浸水深0.5m以上3m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に0.5m～3mの浸水のおそれがある。 ・2階以上の住宅が占める棟数割合は5割未満である。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが大半を占める。 	
	想定浸水深3m以上5m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に3m～5mの浸水のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが大部分を占める。 	
	想定浸水深5m以上10m未満	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に5m～10mの浸水のおそれがある。 ・洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れている。 	

■ 松代エリア居住誘導区域内のL2氾濫流による建物倒壊等と指定緊急避難場所徒歩圏



課題のある箇所	リスクの状況
氾濫流による建物倒壊等指定箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年に1回程度の降雨時に氾濫流による建物倒壊のおそれがある。 ・南端部分を除き、洪水時に避難可能な指定緊急避難場所（洪水の適否○）から離れているエリアが大部分を占める。